

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の 特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の想い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるよう取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	目黒 聡		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	2人	1人	1人	1人	1人	2人	0	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●事前訪問時はできる限り、ケアマネージャーの他に管理者・介護職員の同行訪問を行ない、複数の視点で見ることにより多くの情報を得られるよう努める。また、医療依存度の高い方がいれば看護師も同行訪問していく。 ●今後も引き続き、ご利用者・ご家族からの聞き取りやアンケートを行ないながら、意見や要望を反映しサービスの質の向上に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前訪問時はケアマネージャーの他に管理者又は介護職員の同行訪問を行ない、より多くの情報を得られるよう取り組んだ。看護師については、医療依存度の高い方がおられなかった為、同行訪問は行わなかった。 ●ご家族からの要望により、連絡帳の書式の変更を行ったことで、ご家族にもより見やすい内容となった。その後の聞き取りや、評価は行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員の意見が反映されているのかはわからない。 ●具体的な内容とそうでないところがある。情報収集にインターネットを使用した等、方法・目的を明確にした方がよいと感じた。 ●職員全員で事業所自己評価に取り組んでいると思う。 ●新規の利用者に対していろいろな視点で情報収集していく事は良い事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●より多くの情報を把握する為に、新規事前訪問時には、継続してケアマネージャーの他に介護職員の同行、医療ニーズが高い方については看護師による同行訪問を行う。 ●今年度新たに作成した情報ツールとしての「情報シート」を今後も活用し、ご利用者の状況把握や情報共有を行う。(新たに5個以上の情報を収集し、ケアに繋げていく。) ●今後もご利用者・ご家族へのアンケートを継続して行う。意見や要望によって変更したものについては、再度聞き取りや評価を行い、サービスの質の向上に繋げていく。

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●センターに来所された方へは積極的に声をかけることで、入りやすい雰囲気に配慮し、職員間で情報共有をしていく事で防犯にも注意を払う。 ●地域交流スペースやキッズスペースをより多くの方に活用していただけるよう、活用方法等を回覧板や近隣の保育園・幼稚園や小中学校等・近隣施設へのポスター掲示にて地域住民へ情報発信していく。 ●施設案内看板の大きさや、設置位置の検討を行ない、玄関周辺的环境美化を意識することで、地域の方に見やすく入りやすい工夫を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターに来所された方へは、入りやすいよう配慮し積極的に声をかけるよう心掛けた。防犯に繋がっているのかまではわからないが、職員間での情報共有の意識は出来ていた。 ●各種行事の際には、地域交流スペースやキッズスペースの活用についてのPRを行った。回覧板や近隣の保育園・小中学校・近隣施設へのポスター掲示については、行事の案内までにとどまり、積極的なPRは出来なかった。 ●フリーカフェの案内版の大きさ・設置位置の検討については行えず、同じものを使用していた。玄関周辺については、玄関前にはプランターを設置していたが、昨年同様の規模であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターは鍵を掛けていない。園の方針として鍵を掛けないのであれば、それ以外の防犯対策をした方がよいのではないか。 ●地域共生社会になってきているので、オープンにしていることはいい事だと思うが、防犯面で心配な部分もある。 ●入りづらいところがあると思う。玄関先に花を置くなどの工夫をしてはどうか。 ●センターを訪れた際の職員の対応で居心地が良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターの鍵は日中はかけない方針のため、来所された方が入りやすい(インターホンを押してもらえよう貼り紙の掲示)雰囲気に配慮したり、防犯の視点から、来所された方へ積極的に声をかけていく。 ●地域交流スペースやキッズスペースの活用方法についてのPRポスターを作成し、近隣の保育園・幼稚園や小中学校等、近隣施設へ掲示依頼を行い、地域住民へ情報発信を行う。 ●フリーカフェの案内版の大きさ・設置場所の検討を行う。中庭のスペースを利用し、地域の方の休憩所としても活用して頂けるようにベンチの設置を行う。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して「まちのね」や行事を行ない、周知方法に加え、地域の方に来ていただきやすい日時の設定や内容についての検討を行なう。 ●「まちのね」・各種行事後の今後の活動予定の案内に加えて、相談窓口の案内も行き、回覧板でも情報発信していくことで、事業所が相談しやすい場所となれるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「まちのね」については、平日ではなくできる限り土・日に設定しより多くの方に参加して頂けるよう配慮した。周知方法については、回覧板の他、行事ごとにも予定が決まっているものについては、その都度告知し、周知に努めたが、参加者はリピーターが多かった。 ●「まちのね」各種行事の際に、今後の活動の案内を行い、相談窓口の案内も行ったが、回覧板での情報発信は出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●何の相談を受け付けているのか、具体的な文言があった方がわかりやすいのではないか。 ●センターのことを必要としている人は知っているが、必要としていない人は知らないと思う。 ●告知・掲載内容など、何でも具体的に書くようにして、介護施設を必要としない人にもわかるようにした方がよいのではないか。 ●包括で電話対応をしていると、センターの場所は大体の人が知っているが、どんな機能があるかまではほとんどの人が知らないと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して「まちのね」を年間6回以上開催する。また各種行事も行っていく。 ●その都度センターの活用方法や、今後の活動予定の情報発信をすることで、より多くの地域の方にとって頂けるよう働きかけることと、お茶のみの時間を設けて、話しやすい関係性を作る。 ●回覧板(広報誌)での告知の際は、相談しやすい場所となれるよう、センターについての説明、介護に関すること・今後の心配事等分かりやすく記載した文書を入れる。 ●コミュニティセンターに、センターのパンフレット等を置かせていただくことで、一人でも多くの方にとって頂くきっかけを行う。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターでの行事や活動、地域の学校等の行事に、ご利用者の希望に応じてお連れし、参加していただく。 ●地域の活動や行事に参加するだけでなく、ご利用者の今までの隣近所との関係性も繋げていけるよう関わっていく。 ●安全を確保した上で、季節に合わせて外出、散歩、日光浴の機会を継続して作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターでの行事や活動、地域の学校等の行事については、全員ではないがご希望の方をお連れし参加することができた。 ●訪問・送迎時に、隣近所の方と接触した際には、ご本人が関わりを持てるよう努めた。 ●季節に合わせて、可能な限り外出行事やセンター周辺の散歩・日光浴を行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の行事にご利用者が参加したのには知っているが、職員が参加しているかはわからない。 ●外出だけでなく、センター内でも普段と違う場所で食事をしたりすることで外出のような気分転換になるのではないかと感じる。 ●センターに相談に来ている人がいることは知っているが、地域の心配な方に関わっているのかはわからない。送迎や訪問中に見かけたとしても関わるのは難しいのではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して回覧板等で情報収集を行い、コミュニティセンターでの各種行事や、地域での行事には、ご利用者のご希望に応じてお連れし、参加して頂く。 ●ご利用者の今までの地域との関わりを把握し、地域との関係性も切れる事のないよう、訪問・送迎時や外出時に関わりを持てるようにしていく。 ●年間を通して、安全を確保した上で外出の機会を計画・実行していく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も総合病院・歯科医の方から運営推進委員を継続していただく。専門的な視点で様々な意見を頂きながら、情報交換を行なうことで多職種間での連携を図っていく。 ●地域での課題や困り事等、運営推進会議の場で情報交換を行なうことで、地域の情報を把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度も中央病院・歯科医の方から運営推進委員として参加していただき、様々な専門的な意見を頂くことができた。実際に訪問歯科の利用につながるケースもあり、連携を図ることができた。 ●運営推進会議の中で、地域の心配な方の話しも上がり、包括へ繋がったケースもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外部評価のことがわからなかったため、参加して勉強になっている。 ●事例検討等は運営推進会議の役割なのか疑問に思う。個人情報もあり具体的な話をすることもできない。 ●運営推進会議の中で地域での取り組みを一緒に取り組むことは難しいと思うが、取り組もうとしているのは感じる。今は、これからの地域共生社会に向けて模索している段階ではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も専門職の方にも運営推進委員として参加して頂くことで、多方面からの情報収集・情報交換を行い、多職種間での連携を図っていく。 ●事例検討までは難しいが、地域の中で心配な方等については運営推進会議の中で情報を把握し、必要に応じて各種機関と連携を行う。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の防災訓練を運営推進会議と合わせて実施できるよう時間の調整や同じ日に難しい場合については、別日に実施し、運営推進委員の方、地域の方への参加の案内を行ない、防災についての情報提供や防災意識を共有できるよう努める。 ●町内会長やコミュニティセンターとの情報の共有や、回覧板等からの情報収集を行ない、年間を通しての活動を把握し、地域の防災訓練にも参加させていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議と合わせての防災訓練は出来なかった。今年度中に運営推進委員・地域の方への参加の案内を行い、防災訓練を実施予定。 ●今年度、地域の合同防災訓練に参加させて頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「事業所の防災訓練に参加したことがありますか？」という項目は、運営推進会議委員の何分の何が参加したか特記事項として記入できるとよい。 ●運営推進会議と防災訓練を同時に行えない場合は、センターで行った防災訓練の内容を報告するのでもよいのではないかと感じる。 ●プラット新町では、台風の際に利用日ではないが心配な方がいて、利用にしてお応じた。小規模は泊まりが空いていることがあるので、災害時には地域の役に立てると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の防災訓練に運営推進委員や地域の方にも参加して頂く。また、防災訓練の結果を報告し、情報提供や防災意識の共有を行う。 ●引き続き、地域の合同行事や合同防災訓練にも積極的に参加していく。 ●災害時には、一時的な福祉避難所として地域の必要な方に活用して頂けることを、センターのPRポスターに載せ、地域の方へも情報発信していく。